

東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

第 65 卷

平成 7 年 3 月 25 日 発行

第 3 号

目 次

〔原 著〕

新国際てんかんおよびてんかん症候群分類を基盤とした

小児てんかん症例の分類学的研究

一局在関連てんかんの局在分類に関する新しい貢献— ……向平 暁子・
小国 弘量・大澤真木子・福山 幸夫…153～169

真性大動脈瘤の病変面積と血液凝固・線溶能の変化 ……村井 純子…170～182

ヒト SMP30 (senescence marker protein-30) の
組換え蛋白とその発現 ……成澤 公恵…183～191

サル骨半規管のコンピューターによる三次元再構成と計測 ……吉川 香澄…192～203

迷走神経呼吸相刺激による呼吸相の変化—三相説の検討— ……角田 千治・
北野慎一郎・小松 明…204～212

東京女子医科大学学会第60回総会特集

〔特別講演〕

肝癌の外科的治療 ……羽生富士夫…213～227

〔記念講演〕

東京女子医科大学学会60年の歩み ……相川 英三…228～236

〔シンポジウム〕

高齢者の手術

高齢者破裂脳動脈瘤患者の治療と転帰不良因子の検討 ……谷川 達也・
荒井 孝司・高倉 公朋…237～24375歳以上肺癌手術の検討 ……大貫 恭正・村杉 雅秀・神楽岡治彦・曾根 康之・
毛井 純一・板岡 俊成・横山 正義・新田 澄郎…244～247心臓血管外科領域について ……西田 博・秋本 剛秀・今牧 瑞浦・
北村 昌也・青見 茂之・八田 光弘・

高齢者消化器癌の治療法（手術法） ……遠藤 真弘・橋本 明政・小柳 仁…248～258

井手 博子・鈴木 衛・高崎 健・
中村 光司・今泉 俊秀・羽生富士夫…259～265

一般外科領域における高齢者手術 ……亀岡 信悟…266～273

泌尿器科領域における高齢者手術の現況 ……中沢 速和・東間 紘・
合谷 信行・高橋 公太…274～279

高齢者の麻酔管理 ……川真田美和子…280～286

〔学術情報〕

第13回学内病理談話会（平成6年11月12日） ……287～292

〔雑 報〕 ……293

本誌略名
東女医大誌
J Tokyo Wom
Med Coll

東京女子医科大学学会

SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

東京都新宿区河田町8番1号 東京女子医科大学図書館内

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL COLLEGE

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Vol. 65

March, 1995

No. 3

CONTENTS

Originals

- Research on the classification of epilepsies in children according to
new international classification of epilepsies and epileptic syndromes:
new contribution to the classification of
localization-related epilepsy Kyoko MUKAHIRA,
Hirokazu OGUNI, Makiko OSAWA, Yukio FUKUYAMA... 153-169
- Analysis of coagulation and fibrinolytic activity in true abdominal
aortic aneurysm Junko MURAI... 170-182
- Preparation of human recombinant senescence marker protein-30
and its expression Kimie NARUSAWA... 183-191
- Three-dimensional reconstruction and measurement of the angular
relationship and the diameter of semicircular canals Kasumi YOSHIKAWA... 192-203
- Central respiratory oscillator responses elicited by stimulation of
vagal nerve in expiration Chiharu TSUNODA, Shin-ichiro KITANO,
Akira KOMATSU... 204-212

Special Lectures

- Surgical management of carcinoma of the pancreas Fujio HANYU... 213-227
- The 60th anniversary: The Society of Tokyo Women's Medical College Eizo AIKAWA... 228-236

Symposium

"The recent aspects of surgery in the aged patients"

- Management of aged patients with ruptured intracranial aneurysm and
factors affecting patient's outcome Tatsuya TANIKAWA,
Koji ARAI, Kintomo TAKAKURA... 237-243
- The operation of lung cancer for aged patients Takamasa ONUKI,
Masahide MURASUGI, Haruhiko KAGURAOA, Yasuyuki SONE, Junichi KEI,
Toshinari ITAOKA, Masayoshi YOKOYAMA, Sumio NITTA... 244-247
- Cardiovascular surgery in elderly patients Hiroshi NISHIDA,
Takehide AKIMOTO, Mizuho IMAMAKI, Masaya KITAMURA,
Shigeyuki AOMI, Mitsuhiro HACHIDA, Masahiro ENDO,
Akimasa HASHIMOTO, Hitoshi KOYANAGI... 248-258
- Therapy for digestive organs cancers in the elderly:
operation methods Yoichi KITAMURA, Hiroyoshi SUZUKI,
Hiroko IDE, Mamoru SUZUKI, Ken TAKASAKI,
Mitsuji NAKAMURA, Toshihide IMAIZUMI, Fujio HANYU... 259-265
- General surgery in elderly patients Shingo KAMEOKA... 266-273
- Surgical management for elderly urological patients in
Tokyo Women's Medical College Hayakazu NAKAZAWA, Hiroshi TOMA,
Nobuyuki GOYA, Kota TAKAHASHI... 274-279
- Anesthetic management in elderly patient Miwako KAWAMATA... 280-286

Society of Tokyo Women's Medical College

Tokyo Women's Medical College Library

8-1 Kawadacho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan

東京女子医科大学学会 第60回総会

日時 平成6年9月24日(土)

会場 弥生記念講堂

特別講演「膵癌の外科的治療」



消化器外科学教授 羽生富士夫

記念講演「東京女子医科大学学会 60年の歩み」



図書館長 相川 英三



(司会) 副会長 金野 公郎

シンポジウム「高齢者の手術」



(司会) 第一外科学教授 新田 澄郎
麻酔科学教授 鈴木 英弘



脳神経外科学講師 谷川 達也



第一外科学助教授 大貫 恭正



循環器外科学講師 西田 博



消化器外科学講師 喜多村陽一



第二外科学助教授 亀岡 信悟



泌尿器科学助教授 中沢 速和



麻酔科学助教授 川真田美和子

学術情報

第13回学内病理談話会

日 時：平成6年11月12日（土）午後1：00～

会 場：中央校舎1階 会議室

開会の辞

笠島 武（第二病理）

座長 橋本悦子（消化器内科）

1. 胃壁下に懸垂した epitheloid leiomyoma (leiomyoblastoma) の1例

石山 茂・西川俊郎・笠島 武（第二病理）

2. C型肝炎における細胞接着分子の発現に関する免疫組織学的検討

谷合麻紀子・橋本悦子・青鹿圭子・石黒典子・
林 直諒（消化器病センター内科）

3. 幼若巨核球を主体とした myelodysplastic syndrome (MDS) 様の

骨髓所見を呈した高度血小板減少の1例

番場彩子・四条淑恵・川内喜代隆・藤野智子・
安山雅子・詫摩武英・森 治樹（第二病院内科II）
相羽元彦（第二病院病院病理科）

座長 増田昭博（第二病理）

4. 結核を合併した耳下腺ワルチン腫瘍の1例

山崎たくみ・吉原俊雄・石井哲夫（耳鼻咽喉科）

5. 両側顎下腺腫脹を示した疾患22例の組織学的検討

吉原俊雄・山崎たくみ・水谷陽江・森田 恵・石井哲夫（耳鼻咽喉科）

6. 口腔扁平上皮癌における p53, HSP70, Ki-67の発現に関する免疫組織化学的検討

丸岡靖史・横尾恵美子・安藤智博・桑沢隆補・
三宮慶邦・扇内秀樹（歯科口腔外科）
小林慎雄（第一病理）

座長 豊田智里（第一病理）

7. 糖尿病と血管のかかわり—心筋内細小血管について—

金田良夫・豊田智里・小林慎雄（第一病理）

8. 心移植後、拒絶反応に対する rescue 効果に関する病理組織学的検討

小見山秀一・八田光弘・野々山真樹・星 浩信・前田朋大・
金子原幸宏・華山直二・斉藤 聡・小柳 仁（心研循環器外科）

9. 下垂体腫瘍の病理学的検討

相羽元彦（第二病院病院病理科）
山本昌昭（第二病院脳神経外科）
久保長生（脳神経外科）

10. IUGR（胎内発育不全）と胎盤

藤林真理子・河上牧夫（病院病理科）
岩下光利・中林正雄（母子総合医療センター）

座長 藤林真理子（病院病理科）

11. 腎癌の非癌部における steroid sulfatase の発現について
—組織化学および in situ hybridization による検討—

西川 恵・中沢俱子・相川英三 (解剖学・発生生物学)
西村英樹・東間 紘 (腎臓総合医療センター)

12. Renal sarcoma

白柳慶之・鬼塚史朗・伊藤文夫・前田佳子・
大島 直・木原 健・中沢速和・東間 紘 (泌尿器科)

13. 腎糸球体内マクロファージ浸潤からみた小児期紫斑病性腎炎の検討

木ノ上啓子・服部元史・松永 明・川口 洋・
伊藤克己 (腎センター小児科)

堀田 茂・中山英吾・川島真由子 (腎センター病理検査室)

14. IgA 腎症における糸球体内 PDGF 受容体発現とステロイド治療の関係

内藤 隆・大図弘之・新田孝作・湯村和子・二瓶 宏 (第四内科)

座長 久保長生 (脳神経外科)

15. Dysembryoplastic neuroepithelial tumor (DNT) とその類似疾患について

久保長生・嶋田幸恵・田鹿安彦・日山博文・高倉公朋 (脳神経外科)

16. 福山型先天性筋ジストロフィーの胎児剖検例: 胎齢20週における大脳病変

山本智子・小森隆司・柴田亮行・豊田智里・小林慎雄 (第一病理)
近藤恵理・斉藤加代子・大澤真木子 (小児科)

17. 筋萎縮性側索硬化症の脊髓前角におけるシナプスの変化について

佐々木彰一・谷田部可奈・近藤裕美・堀場 恵・
岩田 誠 (神経内科)

西川俊郎 (第二病理学)

閉会の辞

1. 胃壁下に懸垂した epitheloid leiomyoma (leiomyoblastoma) の1例

(第二病理) 石山 茂・池田郁雄・
西川俊郎・笠島 武

症例は82歳の男性で、胆石・胆嚢炎のため手術目的で入院した。胆摘術中に胃体下部前壁大弯寄りに胃壁外性、有茎性に発育した腫瘤 (大きさ3.5×4.5×1.5 cm, 重量20g) を発見し切除術を施行した。組織学的には腫瘤には類円形ないし多角形の腫瘍細胞の充実性で上皮様配列を示す増殖がみられ、一部に紡錘型の腫瘍細胞も認められた。核分裂の頻度は低く (mitotic index 2-3), 低悪性度な epitheloid leiomyoblastoma と考えられた。免疫組織学的には vimentin, myoglobin が陽性で, α -smooth muscle actin, desmin, S-100タンパクは陰性であった。これらの所見は通常の平滑筋腫と形態と性状が異なるもので細胞起源に論議が多い。平滑筋細胞の aberrant な分化にするとする Enzinger らの説を否定しえない。また、この腫瘍では臨床症状は潜在しかつ内視鏡的にも見出せないことが多いことがあり、また、再発することがある。

2. C型慢性肝炎における細胞接着分子の発現に関する免疫組織学的検討

(消化器内科) 谷合麻紀子・橋本悦子・
青鹿圭子・石黒典子・林 直諒

〔目的〕細胞接着分子の C 型慢性肝炎肝組織内での発現について免疫組織学的手法を用いて検討した。

〔対象と方法〕IFN 治療を施行した C 型慢性肝炎で、治療前45例、治療後20例 (IFN 治療効果: 著効9例, 有効6例, 無効5例) から針生検にて得られた肝組織を無固定凍結, 薄切後アセトン固定し, intercellular adhesion molecule (ICAM)-1, lymphocyte-function associated antigen (LFA)-1, CD44に対するマウスモノクローナル抗体を一次抗体として酵素抗体間接法にて免疫染色を行った。

〔結果〕IFN 治療前, ICAM-1は主に壊死・炎症部位の肝細胞膜上に, LFA-1は浸潤リンパ球に, CD44は浸潤リンパ球と Kupffer 細胞に発現を認めた。IFN 治療後, 著効群ではこれらの発現は著明に減弱し, 無効群では変化を認めない例が多かった。

3. 幼若巨核芽球の出現を主体とし MDS 様所見を

雑 報

編集後記

○編集幹事会

日時 平成6年12月12日(月)午後4時より

場所 弥生記念講堂地下B会議室

議題 東京女子医科大学雑誌65巻3号査読結果審議

一昨年、そして昨年と、日本人が世界に先駆けて提唱し、概念を確立させた2つのタイプの筋ジストロフィーが分子レベルで明らかになってきた。第1は、福山型先天性筋ジストロフィーであり、本学福山幸夫名誉教授が1960年に *Pediatr Univ Tokyo* に1疾患単位として発表された。その遺伝子が9番染色体に存在することが明らかになった。第2は悪性肢帯型筋ジストロフィーである。徳島大学医学部三好和夫名誉教授が1944年の精神神経誌に記載なされ、1966年に疾患概念を発表されたものである。Adhalin という細胞骨格蛋白の欠損であることが判明し、17番染色体に遺伝子が局在することが明らかになった。

それらの成因が遺伝子レベルで解明されつつあるのを、福山、三好両名誉教授は感慨と誇りをもって見つめておられる。昨年、学会で三好名誉教授とお会いして、御苦労の話を伺った。また1944年の精神神経誌の論文のコピーを頂戴し、拝読させていただいた。先生は、経験された筋ジストロフィー症例をその4編の原著論文にまとめ、投稿し、直後に南方の戦場に召集された。その論文が雑誌に掲載されたことは、捕虜になった収容所で、医局の後輩と出会った時に初めて知ったとのことである。

臨床に関する詳細な記載と分析は、先進的診断技術に頼りがちな我々戦後世代にとって非常に教訓的である。その表現は臨床像をいきいきと浮き上がらせており、現代の画一的論文と異なり説得力があった。私はこのような優秀な二人の日本の臨床医学の先達の学問に対する真摯な姿を遠く、近く拝見し、心を打たれる。御二人が築かれた疾患の成因が解明され、根本的な治療法が確立されることを願いたい。そして御二人の末長い御健康をお祈りする。

昨年10月から編集幹事に加えさせていただいております。よろしくお願いいたします。

(1995. 1. 6, K.S.)

東京女子医科大学雑誌投稿規定 (平成5年1月改訂)

1. 投稿は連名者も含め本会会員に限る。但し、準会員のみでは投稿できない。
2. 投稿内容は原著、総説、臨床報告、調査報告、などとする。いずれも未発表のものに限る。
3. 原稿の採否、掲載順は編集委員会において決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
4. 総説は原則として編集委員会の依頼によるものとし、その著者は本会会員に限定しない。
5. 本学会が認定した分科会で発表されたものは、その抄録を本誌に無料で掲載する。このほか編集委員会が必要と認めた学術集会の抄録その他に関するものは有料で掲載することができる。
6. 依頼により年2回まで臨時に特別号を発行することができる。費用は依頼者の全額負担とする。
7. 掲載料は普通紙で和文は刷上り原著4頁・臨床報告2頁まで無料、超過1頁につき6,000円、英文は刷上り2頁まで無料、超過1頁につき8,000円とし、依頼原稿は全頁無料とする。
8. 原則として毎月20日を4ヵ月先の号の締切とする。
9. 別刷は実費とし、50部単位で表紙に明記する。依頼原稿は50部まで無料とする。
10. 校正は初・再校とも著者校正を原則とする。大幅な改変は認めない。
11. 原稿の書き方
 - 1) 原稿は正1部、副(コピー)1部を提出する。但し写真は正と同じものとする。
 - 2) 和文原稿は、A4判もしくはB5判、400字詰め原稿用紙に横書きとし、ワープロの場合は、20字20行を原則とする。当用漢字、現代かなづかいを用いる。
 - 3) 英文原稿はダブルスペースでタイプする。
 - 4) 表紙には、表題、所属、主任または指導者氏名(原著の場合はその校閲印が必要)、著者氏名(フリガナ)、英文表題、ローマ字著者名(名・姓の順、姓は大文字)、英文所属を書く。
 - 5) 和英論文とも、和文の要旨(表題、所属、著者氏名、800字以内)を添える。
 - 6) 和文原著には原則として英文抄録(200語以内)を添える。

英文論文および英文抄録は native speaker の校閲を受け、そのサインを必要とする。
 - 7) 論文の構成は原則として、緒言、対象および方法、

結果、考察、結論、文献、図表(各々別紙)とその一括した表題・説明(和文論文の場合は和文とする)、の順とする。

- 8) 図・写真はそのまま印刷できる明瞭なものとし、裏面に番号、上下を記す。

カラー写真・アート紙使用はその旨明記し、トレースを要する場合もともに実費を徴収する。

- 9) 度量衡の単位、記号は国際単位系(SI)を原則とする。
- 10) 専門用語は学会で統一されたものを用い、略語は初出時に正式用語またはスペルを記載する。
- 11) 文献は引用順に本文中に肩付番号を付し、次の形式で記載する。著者は3名まで記載し、外国人名は姓名の順とする。雑誌名の略記は医学中央雑誌および Index Medicus に従う。

- 1) 川村雅枝, 重本六男, 森吉百合子ほか: ラット cysteamine 十二指腸潰瘍の発生機序について. 東女医大誌 56: 668-676, 1986
- 2) Quimby GF, Bonnice CA, Burnstein SH et al: Active smoking depresses prostaglandine synthesis in human gastric mucosa. Ann Intern Med 104: 616-619, 1986
- 3) 斎藤慎太郎: 甲状腺疾患. pp 1-16, 永井書店, 大阪 (1985)
- 4) 後藤雄一郎, 後藤由夫編: 動脈硬化症の新しい診断と治療. 医薬ジャーナル社, 大阪 (1985)
- 5) 城所良明: 神経筋接合の形成. 「筋発生の細胞生物学」(小沢英二郎, 嶋田 裕, 真崎知生編), pp 259-282, 学会出版センター, 東京 (1983)
- 6) Swaiman KF, Ashwal S: MEP 小児神経病 ケーススタディ, 46例の研修. (福山幸夫監訳), 医学書院, 東京 (1980)
- 7) Kahn CR, Roth J: Insulin receptors in disease states. In Hormone-Receptor Interaction (Levy GS ed) pp 1-29, Marcel Dekker, New York (1981)

12. 本誌の投稿、編集、印刷に関する問い合わせ等は、すべて下記宛てとする。

東京女子医科大学学会編集会

〒162 東京都新宿区河田町8-1

電話 03-3353-8111 内線 22314

FAX 03-5269-7403

編集委員

相 羽 元 彦	斎 藤 加 代 子
井 口 登 美 子	高 桑 雄 一
菊 池 長 徳	高 山 幹 子
小 林 楨 雄	竹 宮 敏 子
久 保 長 生	寺 岡 慧
楠 元 雅 子	◎對 馬 敏 夫
泉 二 登 志 子	渡 辺 伸 一 郎
村 木 篁	山 田 明 義
永 井 厚 志	山 内 克 巳
中 澤 誠	横 山 正 義
○二 瓶 宏	

ABC 順, ◎委員長, ○副委員長

東京女子醫科大學雜誌 第65巻 第3号

平成7年3月15日 印刷
平成7年3月25日 発行

発行者

吉 岡 守 正

会員無料配布

年会費 6,000円

売価1部 1,000円

発行所

東京女子医科大学学会

〒162 東京都新宿区河田町8-1

電話 03-3353-8111 (代表) 内線 22314

FAX 03-5269-7403

印刷所

株式会社 杏林舎

〒114 東京都北区西ヶ原3-46-10

電話 03-3910-4311

FAX 03-3949-0230
